

令和7年度 第1回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和7年度 第1回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和7年5月23日(金) 午後1時30分から午後3時まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎3階 会議室305
4	委員出席者	柳澤委員、伊藤委員、小野委員、城戸委員、笹本委員、三原委員、宮澤委員、 米山委員
6	事務局出席者	洞教育部長、三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、安曇 野市美術館清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、穂高 陶芸会館藤松館長、高橋節郎記念美術館宮沢館長、貞享義民記念館寺島館 長、臼井吉見文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、土屋博物館担当主査、 佐野文化振興担当係長、児玉文化振興担当副主幹
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	2人 (うち記者 0人)
9	会議概要作成年月日	令和7年5月30日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会 (文化課長)

2 あいさつ (教育部長、会長)

■教育部長

・安曇野市では令和7年度市制施行20周年となり、各館で特別な展示など計画・実施している。このうち安曇野市美術館では8月末にリニューアルオープンし、安曇野ガラス工房40周年記念展を開催する。休館中も移動展示や資料の調査研究を進め、活動の充実に努めている。日本博物館協会の全国博物館大会の際、参加者に学校ミュージアムを見学してもらったところ好評だった。

・本日の会議では昨年度の事業報告について協議いただく。より良い活動・運営の姿について忌憚のない意見をいただき今後の活動に活かしていきたい。

■会長

・12月5日にフォーラムが長野県立歴史館で行われる。これは、信州大学附属図書館、長野県立歴史館、長野県立美術館のMLA連携で始めた。今回、安曇野市の学校ミュージアムを報告してもらう予定。

・今年度は美術館2館で大規模改修工事を行っている。

・夏には長野県立歴史館で安曇野展として安曇野の里山の信仰について展示予定。

(自己紹介)

3 報告・協議

令和6年度各館事業報告

(資料は事前配布。各館長による説明は今回省略した)

会 長

- ・当協議会は美術館・博物館からの質問に対して考えるのが本来の在り方。次回からはそれを含めて審議したい。

【委員からの意見等】

委 員

- ・豊科郷土博物館の紀要は見事な啓蒙的論文だ。全国的に読んでもらえるよう希望する。
- ・安曇野市美術館の報告資料で「対話型鑑賞指導の継続研究」とある。キャプションを読むより対話型鑑賞指導の方がより理解できる。飯沼飛行士記念館でも丁寧な説明でアンケート結果も大変満足度が高い。説明を受けることの必要性について検討してほしい。

会 長

- ・現在の市内美術館・博物館の活動は非常勤の学芸員の努力で成り立っている。当協議会から待遇をよくする方策を今後考えたい。
- ・紀要をPDF化して全国・世界にみてもらふことを今後考えるべきではないか。
- ・対話型指導は一方で「うるさい」という人もいる。例えば1か月に1日サイレントまたは説明をする日を設けるなどの工夫をしていくしかないのではないか。

委 員

- ・紀要はとてもいい。
- ・豊科郷土博物館の常設展示替えについて今回は自然環境の保全事業につながるものを期待する。
- ・安曇野市美術館の開館楽しみ。休館中に移動展を交流学习センターで行った。多くの人が利用して美術館の敷居を下げる意味でよかった。ゆりのき（三郷）が多かったので他の地域でも年1回でもやってほしい。
- ・高橋節郎記念美術館で生誕110周年特別展の豊田市美術館から借用した作品展示やAIRの作品展示が素晴らしかった。
- ・東京藝大・京都芸術大学との連携事業も積極的に行われ若い感性がとてもよかった。
- ・「安曇野市美術館博物館連携事業」は以前「ミュージアム活性化事業」の名称でまとめられていたが。

事 務 局

- ・「ミュージアム活性化事業」は文化庁に事業申請する際の実行委員会名。令和6年度は申請してないため本来の「安曇野市美術館博物館連携事業」と記載した。

豊科郷土博物館

- ・常設展示替えは今回作成したブックレットをベースに主に自然、副に民俗として来年夏に行いたい。

安曇野市美術館

- ・移動展では鑑賞者との距離を縮める良い機会となったとともに、これからの館の在り方を示唆するものとなった。これを踏まえ、リニューアルオープンする館では無料区域を設けて自由なスペースを大切にしたい。

会 長

- ・美術品は環境により大変影響される。市民にとって良いことが保存上良くない場合もあるため、将来に対してどうかという視点も入れて出張展示について考えてほしい。

田淵行男記念館

- ・田淵賞について8月10日に穂高交流学习センターで表彰式、講演会を行うほか、その前後には新設したジュニア賞も含めて展示を行うのでぜひご覧いただきたい。
東京、大阪でも巡回展を行う。

高橋節郎記念美術館

- ・残念ながら現在当館の認知度は低い、豊田市美術館とも協力して高橋節郎を全国に発信

していきたい。

委員

- ・子供たちに安曇野の文化のすばらしさを知ってもらい、豊かな安曇野の未来を育ててほしい。そういった意味でいくつか教えてほしい。
田淵行男記念館の「ちくに生きものみらい基金充当事業」および高橋節郎記念美術館の学校受け入れで豊科東小学校が多くを占めるが、他の学校への広報はどのようになっているか。
- ・文書館で先日安曇野市制 20 周年の誕生秘話について講座があった。若い学芸員が文書館の客観資料だけで講話した。素晴らしかった。
- ・各館で子供たちとの関わりについてどのように考えているか教えてほしい。

安曇野市美術館

- ・歩いて来られる豊科北中学校は頻繁に来館されている。他の学校はまず先生方への周知をし、できるだけ来館してもらえよう工夫したい。

会長

- ・交通面、学校行事面で簡単ではないが考えなければいけない。

田淵行男記念館・飯沼飛行士記念館

- ・「ちくに生きものみらい基金充当事業」は徐々に増えている。豊科東小学校は学校内で口コミで広がった。私が館長を兼務している飯沼飛行士記念館で小中学校教員の初任者研修が行われる際に田淵行男記念館の紹介をしている。逆に田淵行男記念館で飯沼飛行士記念館の紹介をしている。
今年度は明南小学校から申し込みがある。先生方の中でも少しずつ事業が定着してきていると感じている。

会長

- ・各館非常に頑張っている。
しかし、来館者数の増加やサービスの提供の話ばかりでなく、資料の保存等本来の業務についても皆さんに認識してもらわなければならない。
当協議会は博物館等を運営する人たちが気持ちよく仕事をするために各館の努力を認識し館の人たちが言えないことを代弁することが大切ではないか。

委員

- ・教育の観点から学校へのアピールは大切である。一方で豊科郷土博物館の「薄焼きづくりワークショップ」のような家族と一緒に体験することも大切。
各館の魅力をどうしたら伝わるか考えたい。
- ・ブックレットについて販売以外にどのように活用するのか。

豊科郷土博物館

- ・当館で考えているのは「ゆりかごからデイサービスまで」。昔の暮らし体験等親子で一緒に体験するのは非常に良いと思う。
- ・ブックレットは今後講座等で活用していく。

会長

- ・食べ物のワークショップは博物館への害虫侵入の観点から危険性を考えたい。

豊科郷土博物館

- ・公民館の調理室を借りて行っている。

委員

- ・豊科郷土博物館友の会で行っている戦時中の資料収集は各世帯の代が変わりつつある中、絶好のタイミングで良い企画だ。

豊科郷土博物館

- ・今後、昭和 30 年代以降の資料も集めようと考えている。

会 長

- ・民俗資料は収蔵庫の空間がない。資料の保存についても戦略的に考えたい。

委 員

- ・対話型鑑賞について欧米ではシルバーボランティアがいる。社会経験豊富なボランティアの活用も一案ではないか。
- ・各館少ない予算で頑張っているのは確かだが、当協議会は運営面について協議するのであって、人事面について考えるのは荷が重いのではないか。

会 長

- ・ボランティアを動かす裏には職員が相当動く必要がある。
- ・新しい博物館を造るのではれば、正規の学芸員について当協議会だからこそ運営状況をみながら要求すべきではないか。

委 員

- ・学校を大事にしてもらいたい。
- ・博物館と学校をつなぐ事業の機会が増えればよいが、カリキュラム的に厳しく、現状で十分で無理なくできる体制で行ってほしい。時間・予算の関係上、学校近くの館に年1回行ければ良いと思う。
- ・資料のPDF化は1人1台端末があるので、紙の資料より現場として非常にありがたい。

会 長

- ・PDF化は事務局を含め考えてほしい。
- ・文書館は展示の実施や古文書等様々なつながりがあるので、美術館・博物館の仲間に入れてはどうか。

事務局（欠席の委員のコメント代読）

- ・安曇野市美術館について中長期的な視点に立った企画のうち、望月桂展は日本近代史美術史上、非常に重要な事業になる。文書館の事業連携などもぜひ検討してほしい。

会 長

- ・各館から委員に聞きたいことはあるか。
- ・当館では年間通じて子供の自然観察会を開催している。委員の皆様も展示だけでなくそういったイベントを見ていただき、ご意見等をいただきたい。

委 員

- ・新任教員の研修会を今年度も市立の美術館・博物館で実施するのか。

事務局

- ・教員の初任者研修は学校教育課で行っているが、飯沼飛行士記念館で今年度も行う予定。

委 員

- ・他の館も年間で回ることを推奨しているか。

臼井吉見文学館

- ・年度ごとローテーションでおこなっているようだ。

貞享義民記念館

- ・今年夏に当館で行う予定。

委 員

- ・貞享義民記念館の名称について館の内容がわかりづらい。アルファベット表記等若者にも響く名称にしてはどうか。

会 長

- ・貞享義民記念館は市の最も大事な人権のことを市全体の中で扱っていくべき場所ではないか。貞享義民の戦いは何であったのかを広い視野で考える契機をみんなで作っていききたい。館長のもと、シンポジウムを開催するなどして今後の在り方を考えても良いと思う。今回の提案を含めて館長により前に進めてほしい。

委 員

- ・学校教育だけでなく、幼児教育のこども園の視点も向けてほしい。

会 長

- ・上記委員から具体的な案を出してほしい。
- ・安曇野市美術館の無料空間やリニューアルオープンした箕輪町の博物館の無料化を念頭に、今後小さな子供たちを含めて来館してもらうためにはどうしたら良いか、そしてそのような中で安曇野市の博物館は、この大きな社会の流れからどのように動いていったら良いか引き続き考えていきたい。

4 その他

事務局から事務連絡

- ・安曇野市美術館名称変更等に伴う委員証の再交付。
- ・次回は10月に開催予定。

5 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。